

授業概要

発達心理学の基礎的理論を踏まえたうえで、胎児期から老年期に至る心身の発達及び学習の過程について講義する。さらにそれを促す指導についての基礎的な考え方の理解を深める。概ね、運動、認知、言語、情緒、社会性の側面を中心に講義する。公立学校や教育センターでの教育現場での実務経験を活かし、発達・保育実践・学習支援等に関する身近な話題の中からアプローチしていくことにより、成長していく実際の子どもを自分なりの視点を持って指導できる基礎的な力をつけることを目指す。

授業計画

第1回	オリエンテーション：発達心理学の概要と発達の定義
第2回	発達心理学の歴史と諸理論・研究法
第3回	身体と運動能力の発達
第4回	情緒の発達
第5回	認知の発達
第6回	言語の発達
第7回	社会性の発達
第8回	乳児期の発達と保育実践
第9回	幼児期の発達と保育実践
第10回	児童期の発達と学校教育・学習支援
第11回	青年期の発達の課題と支援
第12回	成人期の発達の課題と支援
第13回	老年期の発達の課題と支援
第14回	発達障害の理解と教育現場での支援方法
第15回	現代における発達心理学的視点からの課題と対処（ディスカッション）
第16回	筆記試験

※受講者の興味関心や進度に応じて一部変更を行う場合があります。

到達目標

- 1 発達心理学の基礎的事項についての理解
- 2 運動、認知、言語、情緒、社会性の発達過程についての生涯発達の観点からの理解
- 3 子どもの発達を促す学習支援、学校教育・保育実践についての考察と理解
- 4 発達障害についての理解

履修上の注意

- ・原則20分以上の遅刻は欠席、遅刻は3回で1回の欠席とします。6回以上の欠席は、成績評価の対象外とします。
- ・小課題やディスカッション課題などを適宜行います。
- ・注意事項について初回の授業時に伝えるため、初回授業には必ず出席してください。

予習復習

復習を中心にしてください。授業の復習を身に着けるように心がけてほしいです。

評価方法

授業態度・参加度（20%）、小レポートやペーパー提出（30%）、定期試験（50%）、これらを踏まえての総合評価

テキスト

参考図書を下記に示す。

- ・教科書名：『発達心理学—保育者をめざす人へ—』
- ・著者名：石井 正子
- ・出版社名：樹村房
- その他、必要に応じて適宜参考書を指示し、また資料を配布する。

授業概要

人間の心身の発達を学ぶことは、自己理解や他者理解の基本的知識となりうる。教師といった人と密接に関わる職業に関心がある者は、特に、人間の発達段階、発達課題といった基本的な知識や概念を理解しておくことが望ましい。発達心理学に関する学問的知識の紹介にとどまらず、学校現場における児童生徒の様子やいじめ、不登校といった諸問題についても取り上げる。

授業計画

第 1 回	教育者のための発達心理学とは
第 2 回	教育現場における最近の話題
第 3 回	胎児期から新生児期の発達と特徴
第 4 回	乳児期の発達と特徴
第 5 回	乳児期の発達を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 6 回	幼児期の特徴
第 7 回	幼児期の発達を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 8 回	児童期の特徴
第 9 回	思春期の特徴
第 10 回	障害の分類と特徴
第 11 回	障害の特徴を映像資料で理解し、学習内容を文章にしてまとめる
第 12 回	特別支援教育の実際
第 13 回	社会福祉施設に入所している児童・生徒の特徴と生育の背景について
第 14 回	児童生徒を支える社会的資源
第 15 回	生涯発達の視点からの児童・生徒理解
第 16 回	試験

到達目標

- 発達心理学の基本的な知識や概念を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- 教師となった際に、学習内容を学習指導、生徒指導、教育相談、キャリア教育などの場面で生かすことができる。
- 学習を通じて、児童・生徒との関わり方、同僚の教師との関わり方、保護者との関わり方などにも興味・関心を持ち、実践に生かすことができる。

履修上の注意

- 将来、教師を目指し、自分から学習する意欲があること。
- グループワークを取り入れた学習を行います。グループ毎に発表します。

予習復習

予習としてテキストを最低3回音読してから授業に臨むこと。復習においても学習箇所を3回音読すること。授業の中で初めて聞いた言葉、発達心理学の専門用語については、事典を使って調べること。

評価方法

評価基準は授業中の集団議論と意見発表(3割)、授業中に指示するレポート課題の提出(3割)、期末試験(4割)である。

テキスト

初回授業で指示する。